

# 震度6強で死者716人

## 東京湾地震 被災者は67万人

東京湾北部を震源とする震度6強の地震が発生した場合、県内で最大七百十六人が死亡し、建物約三万四千四百棟が全壊、被災は六十七万九百人余に上ることが二十日、県の調査で明らかになった。前回調査（一九九六―九八年）で最大死者約八千六百人と推計された綾瀬川断層は、活動部分が縮減するとの新たな予測などから、想定死者数も百二十四人と大幅に減った。一方で帰宅困難者は最悪のケースで百二十万人を超える。

(中嶋基人)

県震災対策行動計画策定委員会（委員長・角田史雄埼玉大教授）は具体的な減災目標を設定し、震災対策行動計画を本年度内に策定する。

調査は首都直下地震としてプレート境界で発生する東京湾北部、茨城県南部の両地震、いずれも地下十八―五キロにある立

各想定地震の断層位置図★印は想定震源地(県提供)



県南部では県東部を中心に難者が約五十一万人以上に広範囲で揺れ、いずれも液状化による被害が大きい。茨城県南部では避

く、死者も五百六十人と、東京湾北部に次いで多くなる。一方で前回の調査で甚大な被害が予測された綾瀬川断層は、従来は三十五キロ（鴻巣市―川口市）とみられた活動部分が、今回の調査で十七キロ

る。県内約二万二千台のエレベーターでは、東京湾北部地震の発生に伴い五千台以上で途中で停止、閉じ込めが発生する。

であることが判明。予測震度も小さくなり、全壊建物も八千二百棟と五つの想定地震で最小規模となった。

一方で帰宅困難者が百万人を超えるのは東京湾北部（百二十一万七千人）と茨城県南部（百六万四千人）。災害廃棄物は東京湾北部で四百八十三万七千ト、深谷断層では三百二十万五千トと予測される。